



四谷一丁目遺跡

いせきはっくつ 遺跡発掘だより その伍

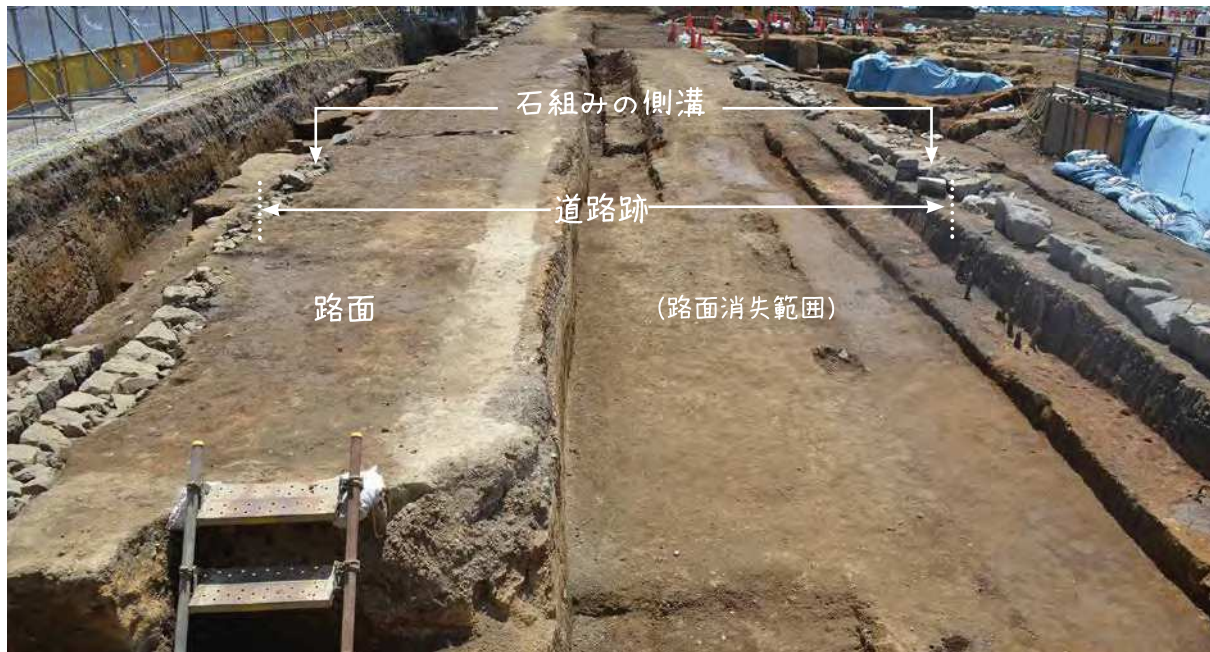
- 旧区道の下を発掘しています! -

2月まで工区を東西に貫いていた区道。アスファルトをめくると、その下には、やはり古い「道路」の跡が残されていました。

というのも、この道路は、外堀が築かれ、旧四谷塩町一丁目町屋の誕生と同時に造られた町のメインストリートと伝えられ、以来380年余の長きにわたって使われてきた道路なのです。

幅約7mの道の両側には側溝(排水溝)があり、幕末から明治大正期(100~150年前)には間知石や切石積みの溝の下には、江戸時代の木組みの溝が残されていることがわかってきました。

さらに、道の下から発見されたのは・・・、それは次号のお楽しみ!



幕末~近代の道路跡と側溝を発掘! (西から外堀通り方面をのぞむ)

南(写真右)側は、上水道など現代のインフラの埋設の影響で、かつての路面は失われていましたが、現代とほとんど変わらぬ約7mの広い道路です。側溝はたびたび作り変えられ、木組みから石組みへ移り変わりますが、雨水や生活排水が道路にたまるような排水機能で管理されていたことがわかります。



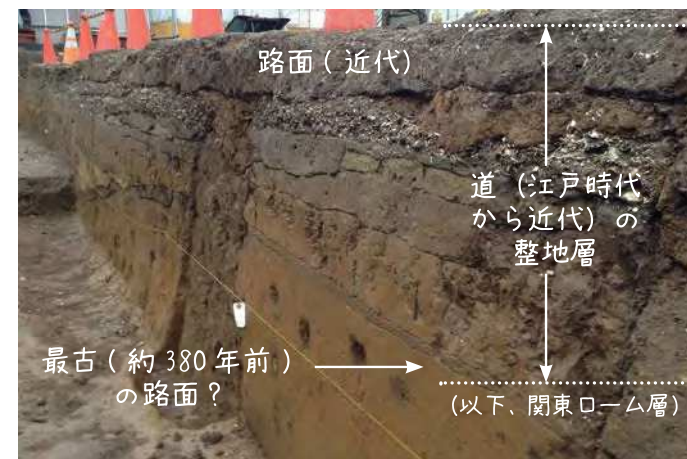
石組みの側溝

おそらく幕末から近代まで使用。おもに伊豆産の凝灰岩製の間知石(四角錐台形の石)や切石で築かれています。



木組みの側溝

江戸時代を通じて使用。木は腐ってほとんど失われていましたが、溝の両側の板を木杭で支える構造であったことがわかりました。



道跡の地層

貝殻混じりの砂利、砂やローム土で何度も改修や整地が行われた結果、厚さ50-60cm程かさあげされていました。



側溝(排水溝)付近の地層

木組の溝の上に石組みの溝が築かれ、何度も作り替えられ、木組たことがわかります。